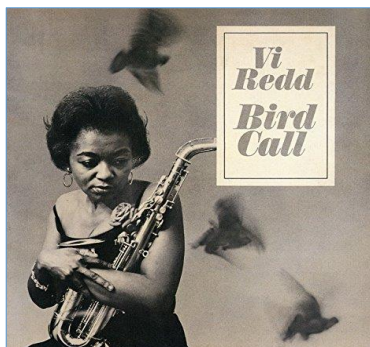


ヴァイ・レッド Vi Redd (1928/9/20 ロサンゼルス生まれ 94歳) 本名:Elvira Louise Redd

モダン・ジャズ黄金時代にヴォーカリスト以外の分野で女性ミュージシャンが活躍した例はあまり多くなく、その数少ない中の一人がアルト・サックス奏者、ヴァイ・レッドである。彼女はチャーリー・パーカーを尊敬し、“レディ・バード”のニックネームを持つ。パーカーの曲を好んで吹いただけでなく演奏も基本的にパーカー・スタイルである。そんな彼女を語る上で外せないもう一つの魅力がブルース・フィーリング溢れる歌の上手さであり、まさに“ヴォーカルとサックスの二刀流”である。



Bird Call (1962年5月21・22日録音) *UNITED ARTISTS

アルバムタイトルのBirdとは勿論、彼女が敬愛していたチャーリー・パーカーのこと。パーカーゆかりの曲や愛奏曲を中心に採り上げている。その素直で嫌味がなくのびのびとしたサックスに加え、彼女のソウルフルでスインギーな歌も堪能できる。故郷のロサンゼルスで活躍する名手たちと共演した貴重な初リーダー・アルバム。

Now's The Time '5:07'

Vi Redd (as, vo), Russ Freeman (p), Leroy Vinnegar (b), Richie Goldberg (ds), Kansas Lawrence (tp), Roy Ayers (vib)

チャーリー・パーカーが作曲した代表的なブルース。彼女はテーマのイントロ部で歌い、その後2ホーンによるテーマに続いてアルトから順にソロが展開される。

Summertime '4:06'

Vi Redd (as, vo), Russ Freeman (p), Bob Whitlock (b), Richie Goldberg (ds), Herb Ellis (g) Roy Ayers (vib)

幅広いジャンルでカバーされているスタンダード。チャーリー・パーカーが「ウィズ・ストリングス」で演奏して有名になった。ヴォーカルからアルトのソロ、そしてヴォーカルによるエンディングと、まさに彼女の独り舞台。

All The Things You Are '6:15'

Vi Redd (as), Russ Freeman (p), Bob Whitlock (b), Richie Goldberg (ds), Herb Ellis (g)

ジェロム・カーン作曲のスタンダード。多くのジャズメンがプレイするが彼女の開放感あるアルトは傑出している。ここでは彼女は歌わずにアルト演奏のみである。

Perhaps / Cool Blues '3:45'

Vi Redd (as), Russ Freeman (p), Leroy Vinnegar (b), Richie Goldberg (ds), Kansas Lawrence (tp), Roy Ayers (vib)

チャーリー・パーカー作曲のビ・バップ。彼女はバップの演奏も得意とし、ここでもヴォーカルはお休みしてアルト演奏をじっくりと堪能させてくれる。ヴィブラフォン、トランペット、ピアノと続いたソロの後、アルト・ソロとアンサンブルで締め括る。

Old Folks '5:35'

Vi Redd (as), Russ Freeman (p), Leroy Vinnegar (b), Richie Goldberg (ds), Kansas Lawrence (tp), Roy Ayers (vib)

ウィラード・ロビンソンによるスタンダード。彼女の哀愁を帯びたアルトから各ソロへ続き、美しいバラード演奏が展開される。エンディングは再びアルトで。



LADY SOUL (1962年11月23日・1963年1月30日録音) *ATCO

1作目のBird Callではチャーリー・パーカーゆかりの曲が多かったが、2作目となる本作ではソウル色が前面に押し出され、一部の曲にはR&B風の雰囲気も漂う。彼女のソウルフルな歌とアルト・サックスが、オルガンを含むアーシーなクインテットによって一層引き立てられている。東西両海岸のニューヨークとロサンゼルスで2ヶ所で録音されている。

6

We'll Be Together Again '2:47'

Vi Redd (vo), Dick Hyman (p), Paul Griffin (org), Bucky Pizzarelli (g), Ben Tucker (b), Dave Bailey (ds)

人気歌手フランキー・レインのテーマ・ソング。オルガンとピアノを含むコンボをバックに、情感豊かな歌を聴かせる。ここではアルトは吹かずにヴォーカルのみ。

7

Lady Soul '4:43'

Vi Redd (as), Bill Perkins (ts), Jennell Hawkins (org), Barney Kessel (g), Leroy Vinnegar (b), Leroy Harrison (ds)

明確なテーマがないため、即興のブルースと推定されている。スロー・テンポのリズムをバックに、彼女のアルト、その後テナー、ギターとソウルフルなソロが続き、再び彼女のソロで締めくくる。名演。

8

Ah Sweet Mystery Of Life '2:28'

Vi Redd (as,vo), Dick Hyman (p), Paul Griffin (org), Barney Kessel (g), Ben Tucker (b), Dave Bailey (ds)

1910年オペレッタのために書かれた曲。ここではミディアム・テンポのスインガーとして彼女が歌うが、専門のソウル・シンガーに迫るような上手さと味がある。

9

This Love Of Mine '4:43'

Vi Redd (as,vo), Dick Hyman (p), Paul Griffin (org), Barney Kessel (g), Ben Tucker (b), Dave Bailey (ds)

1941年当時トミー・ドーシー楽団の専属歌手だったフランク・シナトラの持ちネタ曲。彼女はピアノとオルガンをバックに情感豊かに歌い上げ、後半ではアルト・ソロも披露する。

10

Salty Papa Blues '2:42'

Vi Redd (as,vo), Bill Perkins (fl), Jennell Hawkins (org), Barney Kessel (g), Leroy Vinnegar (b), Leroy Harrison (ds)

レナード・フェザーが用意したシャッフル・ビートのブルース。彼女のアルトとソウルフルな歌は勿論、そのバックに流れるギターとフルートのオブリガートが絶品。



Vi Redd その他の参加アルバム

Now's The Time

Marian McPartland (p), Mary Osborne (g), Vi Redd (as), Lynn Milano (b), Dottie Dodgion (ds)

1977年、女性ミュージシャンのみのクインテットによるニューヨークでのライブ録音。